

# 白 い ま ど

October  
2016年  
10月1日発行  
No.436

# 10

**特集** わが街で健康に暮らす 2

## なぜ、浜松市は健康寿命が長いのか? P-1

- インフォメーション P-3
- 診療科・センター紹介 IVR科 P-5
- 診療を支えるスペシャリスト  
血管撮影・  
インターベンション  
専門診療放射線技師 P-6



**病院理念** 私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもち



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院

# なぜ、浜松市は健康寿命が長いのか？

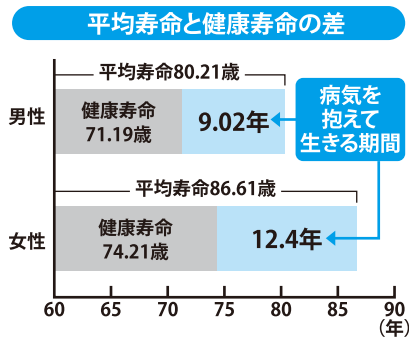
超高齢社会になった今では、地域で暮らす一人一人が健康意識を持つ必要があります。このシリーズでは、毎回健康に関するキーワードを取り上げ、私たちが住んでいるこの街で健康に暮らすための方法を、一緒に考えていきます。

一般的に「日常生活に制限のない期間」とされています（第二次健康日本21）。平成25年度に厚生労働省が発表した日本の健康寿命は、男性平均が71.19歳、女性が74.21歳であり、平均寿命と10歳近い差があります。国によって健康寿命の定義が違うため直接比較はできませんが、健康寿命と寿命の差が少ない国も指摘されています（健康寿命の国内と海外の現状把握と分析評価に関する研究）。

## 平均寿命と健康寿命

日本は世界でもトップ・クラスの平均寿命を誇ります。平成26年度の厚生労働省の報告によると、日本の平均寿命は、男性が80.21歳、女性が86.61歳となり、世界的に見ても、「平均寿命は長寿である」と言えそうです。

最近、「健康寿命」という言葉が耳にすることがあるかもしれません。では、「健康寿命」は、「平均寿命」とどう違うのでしょうか。「健康寿命」は、



## 地域によって健康寿命は違う

実は、日本の国内でも、住んでいる場所によって、健康寿命に違いがあることが分ってきました。ニュースなどで報道されたため耳にした方も多いかもかもしれませんが、平成24年に20大都市ごとの健康寿命が発表され、浜松市が男女とも日本一となっています（男性：72.98歳、女性：76.94歳）。浜松市は、第5位の都市と比較して、1年半の開きがあり、「何かが、浜松で健康寿命に良い作用を及ぼしている」ことは、間違いのないようです。

しかし、健康寿命にどのような要因がどの程度の影響を与えているかについて、未解明の部分が多いため、今後、さらに研究を進めていく必要があります。

## 浜松で考えてみる



浜松医科大学健康社会学講座の尾島俊之先生によると、浜松市の健康寿命が長い要因として、「気候が温暖で日照時間が長い」、「就労率が高い」、「高齢者の社会参加が活発」、「市内には企業の数が多い」、「経済的に落ち着いている」、「古くから東西の文化が行き交う地理的優位性」、「浜松方式といわれる医療体制（「たらいまわし」の防止）」などが考えられていますが、はっきりしたことは分っていないようです。

でも、言えることが一つあります。「健康寿命が長いということは、浜松がとても暮らしやすい地域だ」ということです。皆さんの何気ない行動が、健康寿命を延ばしているかもしれませんね。

文責：総合診療内科 医長 本間 陽一郎

次回、「わが街で健康に暮らす3」は「何を食ると良いですか?」です。2017年1月号に掲載予定

## インフォメーション

イベントのご案内 **参加無料・申込不要**

### 第3回 がんに関する市民公開講座

**テーマ** 学ぼう! 肺がん

**日時** … 2016年10月22日(土) 13:00~14:40

**場所** … 大会議室(医局管理棟B1階)

**お問い合わせ先** … がん診療支援センター TEL:053-474-2614(平日 8:30~17:00)



## 妊娠かな?

と思ったら…

☎ 053-474-3067

へお電話ください

産科外来直通/月~金 14:00~16:45



- ♥ 妊娠検査薬等で妊娠が確認できれば、紹介状がなくても受診できます。
- ♥ 受診希望日の10日~14日くらい前までに、産科外来へお電話ください。
- ♥ 当院産科には、助産師が主となって妊娠初期から出産、産後ケアまでを担当する「院内助産システム」もあります。

聖隷浜松病院 総合周産期母子医療センター

検索

### 産科外来を受診される際は

事前に、ホームページから問診書類(「診察申込書」・「産科問診票」)をダウンロードすることができます。必要事項を書き込み、初診時にお持ちいただくと、受付から診療がスムーズに行えます。



### 新任医師紹介

新生児科  
もとしげ きょうこ  
元重 京子  
長崎大学  
(1999年卒)



腎臓内科  
おの まさひみ  
小野 雅史  
浜松医科大学  
(2001年卒)



手外科  
たなか たつや  
田中 達也  
愛知医科大学  
(2006年卒)



外科  
たかべ ゆうや  
高部 裕也  
山梨大学  
(2013年卒)



## IVR科

患者さんに優しい  
医療を提供します

IVRとは、様々な医療場面で活躍の場を広げている治療法です。X線やCT、超音波などの画像診断装置を見ながら、体内に細い医療器具（カテーテルや針など）を入れて、できるかぎり体に傷を残さずに病気の診断・治療を行う画期的な方法です。

当科は、診療各科から依頼を受けて、主に、①肝細胞癌など腫瘍性病変に対する動脈化学塞栓術<sup>どうみゃくかがくそくせんじゅつ</sup>、②動脈出血に対する緊急動脈塞栓術<sup>きんきゅうどうみゃくそくせんじゅつ</sup>、③腫瘍の性状診断を目的としたCT画像ガイド下生検<sup>せいけん</sup>④腎不全患者さんの透析シャント不全に対する血管拡張など、幅広いIVR治療を行っています。

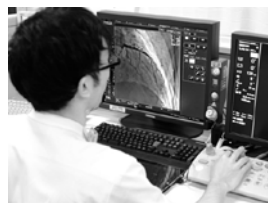
医師をはじめ全スタッフが安全で優しい医療を目指して日々努力していますので、当科での診療を勧められた際には安心して受診してください。



文責:IVR科 部長 片山 元之(写真後列右から4番目)



## 血管撮影・ インターベンション 専門診療放射線技師



## IVRなどに携わる 放射線の専門家！

当院では、専門的知識と技術を持った医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師などの他職種が連携しチームで患者さんの治療に臨んでいます。

その中で、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師は、最新の医療技術に対応した統一的基準に基づいて、血管撮影とインターベンション(IVR\*)に専門的に携わる技師として認定されています。当院には、現在、4名の血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師が在籍しており、X線撮影や画像処理、装置の管理を行っています。IVRIは、体に大きな傷を付けることなく治療ができますが、X線装置を用いるため放射線被ばくは避けられません。患者さんに低被ばくで安全な治療を提供できるように、チームの一員として業務に励んでいます。

\*IVR…  
インターベンショナルラジオロジーの略。  
画像診断装置で体の中を見ながら、体内に細い医療器具（カテーテルや針など）を入れて病気の診断・治療を行う。



文責:放射線部 望月 佑馬、栗田 仁一



# 聖隷浜松病院からのお知らせ

## 初診の方へ 紹介状をお持ちください

紹介状及び予約が必要な診療科(紹介予約制)がありますので、事前にご確認ください。なお、当院を受診される際に、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合は、初診に係る選定療養費として5,400円(税込)を別途ご負担いただいています。

当院は、地域医療支援病院として急性期医療を担い、「かかりつけ医(診療所等)」と役割を分担する病診連携を推進しています。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

また予約時には、症状や診療科の確認等が必要となることがあります。原則としてかかりつけ医からご予約をお取りいただくようお願いいたします。

やむを得ず患者さんから予約する場合は診療科・担当医をご確認のうえ、下記までご連絡ください。

▶ **地域医療連絡室(JUNC)** ☎053-474-8801  
(月～金曜 9:00～17:00・土曜 9:00～12:00 / 祝祭日を除く)

## 再診の方へ 予約変更のご案内

予約変更は、適切な診療提供に支障をきたすおそれがありますのでお控えください。やむを得ず予約変更を希望する場合のみ、下記までご連絡をお願いいたします。

- お手元に診察券・予約券等をご準備ください。
- 時間帯によってはお電話がつながりにくい場合があります。
- 変更の際は医師等に確認が必要なため、お時間や日数がかかります。

▶ **外来受付センター** ☎053-474-0100 (月～金曜9:00～16:45)

## 面会の方へ

面会時間…(月～土曜) 14:00～20:00、(日曜・祝日) 10:00～20:00

- 小児科病棟の面会者はC棟1階で手続きをお願いいたします。
- 院内感染予防の目的で、以下の症状がある方には、面会をご遠慮いただいています。  
発熱 / 咳・痰 / 原因不明の発疹 / 嘔吐・下痢



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 聖隷浜松病院

ジョイント・コミッション・インターナショナル認証  
日本医療機能評価機構認定  
地域医療支援病院

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12 ☎053-474-2222  
発行責任者 病院長 鳥居 裕一